

# 検査の説明

この表は、それぞれの検査でどんな病気かわかるかを簡単に表したものです。ただし、検査結果はその日の体調や食事のとり方などで変わることもあります。わずかに基準値からはずれていてもすぐに病気と考える必要はありませんが、検査で特別の異常がみられたり、体調が悪い時には必ず医師に相談してください。

※当施設では年度毎に最新の基準値に更新しています。そのため、過去の基準値とは異なる場合があります。

検査		基準値	検査説明	主な疾病	
<b>BMI</b> (Body Mass Index)		25.0 以上：肥満 18.5 未満：やせ	身長と体重から計算します [BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) ] BMI 22前後がもっとも生活習慣病の発症が少ないといわれています	高値	肥満 → 生活習慣病
				低値	やせ
<b>血圧</b>		収縮期血圧： 130 mmHg 未満 拡張期血圧： 85 mmHg 未満	血管に加わる圧力を測定します 塩分過剰摂取・肥満・ストレスなどが影響すると いわれています	高値	高血圧 → 動脈硬化、心筋梗塞、脳梗塞
				低値	低血圧
<b>視力</b>		0.7 以上	どのくらい小さなものまで見分けられるか測定します	低値	近視、乱視、その他の眼疾患
<b>聴力</b>		所見なし	難聴の有無をみます	所見あり	中耳炎、騒音性難聴、突発性難聴
<b>腎・ 尿 路 系 検 査</b>	<b>クレアチニン</b>	男：1.00 mg/dL 以下 女：0.70 mg/dL 以下	腎臓から尿中に排出され、腎機能が低下すると 上昇します	高値	慢性腎臓病、腎不全、脱水
	<b>eGFR</b>	60.0 mL/min/ 1.73 m <sup>2</sup> 以上	腎機能の指標です	低値	慢性腎臓病、腎不全
	<b>BUN</b>	8.0~20.0 mg/dL	脱水や消化管出血などで高値となります	高値	腎不全、脱水、消化管出血
	<b>尿蛋白</b>	陰性 (-)	腎・尿路系の病気の有無をみます	陽性	生理的蛋白尿、腎炎、ネフローゼ症候群
	<b>尿潜血 (血尿)</b>	陰性 (-)	腎・尿路系からの出血の有無をみます	陽性	尿路結石、腎・尿路腫瘍、腎炎
	<b>尿沈渣</b>	赤血球： 4個以下/1視野 白血球： 4個以下/1視野	尿を遠心分離し、尿の中の沈殿物を検査します 白血球・赤血球・結晶成分・微生物・などをみます		
<b>尿酸</b>		2.1~7.0 mg/dL 以下	摂取過剰 (甲殻類、肉類、アルコール)、 腎からの排泄障害で上昇します	高値	痛風、腎結石、腎不全
<b>血液 一 般</b>	<b>白血球</b>	3100~8400 / $\mu$ L	感染症などで上昇します 白血病では腫瘍性増殖のため異常細胞が認められます	高値	感染症、白血病、外傷
	<b>赤血球</b>	男：430~570 $\times 10^4$ / $\mu$ L 女：380~500 $\times 10^4$ / $\mu$ L	貧血・多血症の検査です	高値	多血症、脱水
	<b>ヘモグロビン</b>	男：13.1~16.3 g/dL 女：12.1~14.5 g/dL	栄養(特に鉄分)が不足したときや、胃潰瘍・子宮筋腫 などによる出血が原因で貧血が起こることもあります	低値	貧血、失血、膠原病、白血病
	<b>ヘマトクリット</b>	男：39.7~52.4 % 女：34.8~45.0 %			
	<b>MCV</b>	85~102 fL	貧血の種類を判断するための検査です	基準 値内	正球性正色素性貧血 (急性失血、溶血 性貧血、骨髄造血障害、腎性貧血)
	<b>MCH</b>	28.0~34.0 pg	赤血球数・色素量 (ヘモグロビン) ・ヘマトクリット値 から計算され、この3種類の検査の結果から、赤血球の 質的な変化を知ることによって、貧血の大まかな分類と 診断ができます	高値	大球性高色素性貧血 (鉄欠乏性貧血、 慢性炎症に伴う貧血)
	<b>MCHC</b>	30.2~35.1 %		低値	小球性正色素性貧血 (鉄芽球性貧血、 サラセミアなどのヘモグロビン合成異常) 小球性低色素性貧血 (鉄欠乏性貧血、 慢性炎症に伴う貧血)
	<b>血小板</b>	14.5~32.9 $\times 10^4$ / $\mu$ L	生体内の止血に関与しています 減少すると出血傾向、増加すると血栓症を起こしやす くなります	高値	血小板増多症、慢性骨髄性白血病
			低値	免疫性血小板減少症、 再生不良性貧血、肝硬変	
<b>肝 臓 機 能 検 査</b>	<b>AST (GOT)</b>	30 U/L 以下	肝臓・心臓・骨格筋の細胞内に存在する酵素で、 細胞障害がおけると上昇します	高値	肝炎、肝硬変、脂肪肝、心筋梗塞 多発性筋炎
	<b>ALT (GPT)</b>	30 U/L 以下			
	<b><math>\gamma</math>-GTP</b>	50 U/L 以下	肝・胆道系の病気で上昇する微量酵素です アルコール性肝障害では禁酒により2-3週間で 改善を認めます	高値	アルコール性肝炎、胆石症 胆嚢・胆道がん

検査		基準値	検査説明	主な疾病	
肝臓機能検査	A L P	114 U/L未満 (IFCC)	骨・肝臓の細胞内にある酵素で、細胞障害がおこると上昇します	高値	胆石症、肝硬変、アルコール性肝炎、骨折
	尿ウロビリノーゲン	(N)	胆汁に含まれるビリルビンが腸内細菌により分解されてできます ウロビリノーゲンの量を調べると、肝臓や胆道系の異常がわかります	増加	肝炎、肝硬変、溶血性黄疸
				減少	胆道閉塞
	L D H	223 U/L 未満 (IFCC)	全身各臓器の細胞内にある酵素で、細胞障害がおこると上昇します	高値	肝炎、肝硬変、肺炎、膵炎、心筋梗塞 白血病
	総ビリルビン	0.2~1.2 mg/dL	赤血球のヘモグロビンから作られる色素で、胆汁の成分になっています ビリルビンが増加すると黄疸になります	高値	肝硬変、慢性肝炎、閉塞性黄疸、胆汁性胆管炎
コリンエステラーゼ	男：234~493 U/L 女：200~452 U/L	肝細胞で作られるため、肝機能の指標になります	高値	糖尿病、脂肪肝、過栄養、肥満	
			低値	肝硬変、肝がん、消耗性疾患	
蛋白	総蛋白	6.5~7.9 g/dL	血液中の蛋白の総量を表し、全身状態の良否がわかります	高値	多発性骨髄腫、慢性炎症、脱水
	アルブミン	3.9 g/dL 以上	肝臓で作られ、血液蛋白のうちでもっとも多く含まれる成分です	高値	肝臓障害、低栄養症、ネフローゼ症候群
膵臓	アミラーゼ	44~132 U/L	膵液・唾液中に多く含まれる酵素蛋白です	高値	膵炎、膵腫瘍、耳下腺炎
脂質代謝	総コレステロール	140~199 mg/dL	血中コレステロールの総量です コレステロール値が高くなると、動脈硬化の原因となります	高値	肥満症、高コレステロール血症
				低値	低栄養症、肝硬変、吸収障害症候群
	中性脂肪	30~149 mg/dL (空腹時) 30~174 mg/dL (随時)	主に食事から吸収され、エネルギーとして利用されます 過剰分は皮下脂肪や肝臓の脂肪として蓄えられます 食事による影響が大きく、空腹時の検査が必要です	高値	肥満症、脂肪肝、糖尿病 高中性脂肪 → 動脈硬化、心筋梗塞 胆嚢・胆道がん
	H D L - C	40 mg/dL 以上	動脈硬化を防ぐ働きがあるため、善玉コレステロールとも呼ばれています	低値	動脈硬化 → 心筋梗塞、脳梗塞
	L D L - C	60~119 mg/dL	動脈硬化を促進させるため、悪玉コレステロールとも呼ばれています	高値	動脈硬化 → 心筋梗塞、脳梗塞
				低値	低栄養症、肝硬変、吸収障害症候群
non-HDL-C	90~149 mg/dL	(総コレステロール) - (H D L - C)	高値	高コレステロール血症	
L H 比	2.0 以下	(L D L - C) ÷ (H D L - C) のことで、動脈硬化の指標の一つです 糖尿病・高血圧を伴う場合は、1.5以下が望ましいと 言われています	高値	動脈硬化	
糖代謝	血糖	50~99 mg/dL (空腹時) 50~139 mg/dL (随時)	糖尿病の検査です 食事内容や食後経過時間により値が変化します	高値	糖尿病、肥満、慢性膵炎、ホルモン剤内服
				低値	インスリンノーマ、肝不全
	H b A 1 c	5.6 % 未満	過去1-2ヶ月の血糖状態を反映し検査当日の飲食の影響を受けません 血糖値が高い状態が続いていると高値になります	高値	糖尿病
尿糖	陰性 (-)	血糖値が高いと尿中に糖が排出されます 正確には血糖の数値と比較して見る必要があります	陽性	糖尿病、肥満、腎性尿糖	
便潜血	陰性 (-)	消化管からの出血の有無をみます	陽性	大腸ポリープ、大腸がん、痔	
心電図	異常なし	心臓の拍動時に出る電位をとらえて異常の有無をみます		不整脈、心肥大、心筋梗塞	
胸部X線	異常なし	肺がん・肺結核・肺炎等の有無を調べます 心拡大や大動脈の状態も知ることができます		肺がん、肺結核、肺炎、肺気腫 心拡大、胸部大動脈瘤	
胃透視	異常なし	胃・十二指腸の内壁を観察し、がん・潰瘍・炎症などの有無をみます		胃炎、胃・十二指腸潰瘍、がん	
胃カメラ	異常なし	上部消化管の内壁の状態を観察する検査です			
生検 (組織検査)	異常なし Group 1	胃カメラ検査で異常があった場合、生検 (組織検査) を行う場合があります 患部組織の一部を顕微鏡等で調べる検査です			
腹部エコー	異常なし	超音波を用いて臓器を調べます 健康診断では、肝臓、胆道 (胆のう・胆管)、すい臓、ひ臓、腎臓などの検査を主な目的としています		腫瘍、ポリープ、炎症、結石	

検査		基準値	検査説明	主な疾病	
眼底		KW-0	眼底の網膜の状態（出血・白斑）や動脈硬化の程度を調べます		動脈硬化、網膜症
眼圧		7~21 mmHg	眼球の内圧を計測します 主に緑内障の発見を目的とします	高値	緑内障
骨密度検査		90 % 以上	かかとの骨に超音波をあて骨量を計測します	低値	骨粗鬆症
肺機能検査		基準値内	肺の換気機能を検査します	低値	COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎
動脈硬化検査		基準値内	手足の血圧を計測し、動脈血管の状態を検査します	上昇	動脈硬化
喀痰細胞診検査		陰性 Class I ~ II	痰を採取し、細胞を調べます		肺がん
ピロリ抗体検査		4 U/mL 未満 (WAKO LIA)	血液検査でピロリ菌に対する抗体の有無をみます ピロリ既感染に対しても抗体値が高く出ます	陽性	ピロリ菌感染
ペプシノゲン		陰性 (-)	血液検査での胃の萎縮を調べる検査です 胃がんになりやすいかどうかわかります	陽性	萎縮性胃炎
肝炎	HBs 抗原	0.05 IU/mL 未満 陰性 (-)	B型肝炎ウイルスに感染していないかを確認する検査です	陽性	B型肝炎
	HBs 抗体	10.0 mIU/mL 未満 陰性 (-)		陽性	B型肝炎、ワクチン接種後
	HCV 抗体	陰性 (-)	C型肝炎ウイルスに感染していないかを確認する検査です	陽性	C型肝炎
炎症	CRP	0.30 mg/dL 以下	体内で炎症や組織破壊が起こっていないかを確認する検査です	高値	感染症、膠原病、悪性腫瘍
	RF	15.0 IU/mL 以下	慢性関節リウマチなどで上昇します	高値	慢性関節リウマチ、膠原病
腫瘍マーカー	CEA	5.0 ng/mL 以下	血液検査による、消化器がん、肺がん、乳がん、子宮がんなどの検査です	高値	消化器がん、肺がん、乳がん、子宮がん
	CA19-9	37.0 U/mL 以下	血液検査による、消化器がん（特にすい臓がん、胆道がん）などの検査です	高値	消化器がん（特にすい臓がん、胆道がん）
	CA125	35.0 U/mL 以下	血液検査による、卵巣がん、子宮がんの検査です	高値	卵巣がん、子宮がん
	シフラ	3.5 ng/mL 以下	血液検査による、肺がん、卵巣がん、子宮がんの検査です	高値	肺がん、卵巣がん、子宮がん
	エラスターゼ1	300 ng/dL 以下	血液検査による、すい臓がんの検査です	高値	すい臓がん
	PSA	4.000 ng/mL 以下	血液検査による、前立腺がんの検査です	高値	前立腺がん
婦人科	マンモグラフィ	異常なし	乳房のエックス線検査です 乳がんの早期発見に役立ちます		乳がん
	乳腺エコー	異常なし	乳房の超音波検査です 妊娠中、授乳中の方でも受けられます		
	子宮頸部細胞診	NILM（異常なし）	子宮頸部の細胞を採取し検査します 子宮頸がんの早期発見に役立ちます		子宮頸がん
	HPV	陰性	細胞診同様、子宮頸部の細胞を採取し検査します		ヒトパピローマウイルス感染
	経膣エコー	異常なし	子宮や卵巣の病変を超音波を用い検査します		卵巣腫瘍、子宮筋腫

## 【注意事項】

※結果報告書の基準値は参考のために掲載したものです。総合判定には医師の判断を加えております。

- ◆ 治療・精密検査のために病院を受診するときは、必ず結果報告書もご持参ください。
- ◆ 結果報告書はあなたの健康管理のための大切な記録です。紛失しないように保管してください。

## 【ご案内】

作成手数料として、既定の料金をいただきますのでご了承ください。

文書名	作成手数料（1部）税込
結果報告書（再発行）	770円
診断書/証明書	2,750円
診療情報提供書/紹介状	2,750円
画像データ（DVD）	220円

◆受け渡しに関しましては、ご本人確認させていただきますので、免許証等の身分証明書をご準備ください。

◆原則、来院での受け取りとさせていただきます。遠方の方で、来院が難しい場合はご相談ください。（別途料金がかかります）

◆ご本人様以外が受け取りに来る場合は、委任状をご準備ください。  
委任状はホームページからダウンロードして下さい。  
<https://www.junpu.or.jp/hc-center/result.html>

◆画像データのみでの作成はできません。

みんなの  
健康寿命を  
延ばそう!

# 国民の健康に関する目標が変わりました!



## 今より少しでも多く身体を動かしましょう!

1

日常生活での歩数を  
増やしましょう



1日目標  
**8000歩**

※65歳以上は6000歩

2

運動習慣をつけましょう

筋トレを

週**2~3回**

合計**60分**



3

座っている時間を  
減らしましょう

**30分**に  
1回立つ



## 気づかないうちに飲みすぎていませんか??

飲酒量を減らすと減らした分だけ

血圧の改善

肥満の予防

様々な  
病気の予防

死亡  
リスクの低下

に繋がります

飲酒量チェック (1日当たり)

男性

女性

0本



0本



ビール 500ml  
1本



ビール 500ml  
0.5本



ビール 500ml  
2本~



ビール 500ml  
1本~



※ビール500ml相当: 日本酒1合/焼酎0.6合/酎ハイ(7%)350ml

### アルコールによる健康被害



### ドキッとした方は

- まず食事でおなかを満たす
  - お酒を飲む曜日・時間を決めておき休肝日を確保する
  - 一口ごとにコップを置く
  - ノンアルコール飲料を活用する
  - 宴席ではグラスを空にしない
  - 周りに宣言する
- など少しでも飲酒量を減らしましょう

厚生労働省:健康日本21 厚生労働省:健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023  
厚生労働省:健康に配慮した飲酒に関するガイドライン

### 2025年度改定事項

#### 基準値・検査方法変更

血清アミラーゼ  
C判定 経過観察期間の追記

### 健康相談・特定保健指導に関してのお問い合わせ先

#### 順風会健診センター【保健事業部】

TEL:089-927-1272 FAX:089-911-0151